

令和4年度 奈良県立大淀・奈良南高等学校 学校評価総括表

【高等学校用】

|                   |                                                                                                                                                                |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和4年度             | 令和4年度（中期計画1年目）                                                                                                                                                 |
| 本校の使命（スクール・ミッション） | 地域とともにある学校づくりを推進し、保護者や地域住民等が参画することにより、信頼される「魅力ある学校づくり」に努めます。また、様々な教育活動を通して人権尊重の精神をもち、社会に貢献する自立した人材を育成します。<br>普通科・情報科学科・総合学科・専攻科を有する高等学校として奈良県・地域社会のニーズに応えています。 |
| 令和4年度重点目標         | ・規範意識の向上<br>・基礎学力の充実と学力の伸長                                                                                                                                     |

1 スクール・ポリシーの内容

|                     |                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育方針<br>(スクール・ポリシー) | 入学者の受け入れに関する方針<br>(アドミッション・ポリシー)      | 本校では、次のような生徒を積極的に受け入れます。<br>・本校の使命や教育方針を実践できる生徒<br>・基本的な学力が身に付いており、主体的・探求的に取り組める生徒<br>・人権尊重の精神に徹し、他者を認め、社会貢献の意識の高い生徒<br>・将来、奈良県内の企業等で建築や土木の業務に従事する意思を有しているもの（専攻科）                                                                                                                             |
|                     | 教育課程の編成及び実施に関する方針<br>(カリキュラム・ポリシー)    | 本校では、確かな学力、豊かな人間性、たくましい心身を育成するため以下の教育を行います。<br>・生徒一人一人の興味・関心、進路選択に応じたカリキュラムを編成します。<br>・学力の向上を図り、生徒一人一人の自己実現を目指します。<br>・道徳心や公共心を育み、ボランティア活動を推進し、社会の一員として社会に貢献する精神を育てます。<br>・基本的な生活習慣を身に付け、規範意識を向上させることにより、正しい判断力を涵養します。<br>・部活動への積極的な参加を促し、体力・気力の向上を図ります。<br>・専門的な内容をより深く学び、資格等の取得を目指します。（専攻科） |
|                     | 育成を目指す資質・能力に関する方針<br>(グラデュエーション・ポリシー) | 本校では、卒業（終了（専攻科））までに、以下の資質・能力の育成をめざします。<br>・確かな学力や自主的創造的な態度や能力を身に付け、社会に貢献することができる。<br>・人権尊重の精神に徹し、規律を重んじ、道徳心や連帯意識を身に付けている。<br>・国際理解、情報化、価値観の多様化などの社会の変化に対応できる。                                                                                                                                 |

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

| テーマ                     | 学校の教育活動に関する目標（A）   | 計画期間における具体的目標（B）                           | 令和4年度末の目標値等（C）                                        | 令和4年度末の状況（D）                                        | 自己評価（E）                                   | 学校関係者評価（F）                                                                                                                                              | 改善方法                                 |                                          |
|-------------------------|--------------------|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------------|
| 1. ころと身体を子どもの成長に合わせてはくむ | 健康教育の充実            | 心身に関する配属生徒に対する研修機会の増加                      | 情報の共有と年2回の実施                                          | 生徒の特性や状況は周知できた。                                     | 生徒の対応も概ねできた。                              | 【委員からの質問】<br>朝食を食べない理由は、高校生全般なのか。<br>→「深夜まで起きてる」「家庭の事情も考えられる」                                                                                           | 共有、周知、配慮の徹底                          |                                          |
|                         | 食育の推進              | 保健所と連携した望ましい食習慣の確立                         | 食に関するアンケート年1回実施<br>アンケート結果の把握                         | 毎日朝食をとる生徒は約50%                                      | 自分の生活習慣の振り返りができた。                         |                                                                                                                                                         | 生活習慣の改善を勧めていく。                       |                                          |
|                         | 運動習慣の定着            | 普段の運動習慣を身に付ける指導の実施<br>授業・部活動への参加率を高める      | 体力測定結果やアンケート結果の情報の共有とアウトプット                           | 運動部に26%の生徒が所属                                       | アンケート結果を確認することで自己分析ができた。                  |                                                                                                                                                         | 運動の楽しさや大切さ部活動参加を勧めていく。               |                                          |
| 2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはくむ   | 進路実現を意識した基礎的な学力の向上 | 基礎学力テストでの成績（スコア）の向上                        | 基礎学力テストの成績（スコア）の維持                                    | 全体平均のスコアは1・2年ともに維持できた。D3の生徒の割合は入学時と比較して8～9ポイント減少した。 | D3の生徒が減少したのは成果。全体平均のスコアが向上していないのが課題。      | 【委員からの質問】<br>部活動離れが進んでいるようだ？<br>→進んでいる。特に団体競技離れが顕著。アルバイトに励む生徒が増加傾向。                                                                                     | 日頃の学習習慣をつけさせるように指導を重ねる。              |                                          |
|                         | 教職員の授業力・資質向上       | 各教科の研究授業を実施年1回以上<br>生徒・保護者の授業満足度の向上        | アンケートの授業満足度に関する項目でA（そう思う）が50%かつA+B（そう思う+だいたいそう思う）が95% | 11月に各教科ごとに研究授業を実施した。アンケート結果はAが53.1%、A+Bが99.6%。      | 目標値を達成できた。                                |                                                                                                                                                         | 高校の方がICTに関して進んでいるので、是非指導をお願いしたい。     | 各教科で授業公開の機会を増やし、相互評価や意見交換を通して授業力の向上を目指す。 |
|                         | 学校における働き方改革の推進     | 超過勤務時間10%減                                 | 年間超過勤務の実態把握                                           | 4月～1月の教員の平均超過勤務時間：20時間41分/月                         | タイムカードの打刻を徹底し、教員の勤務実態を概ね把握できたことが成果。       |                                                                                                                                                         |                                      | 超過勤務時間が多い職員の業務を分析する。超過勤務時間が増える月の業務を分析する。 |
| 3. 働く意欲と働く力をはくむ         | インターンシップ等の充実       | インターンシップ等の参加率25%以上                         | インターンシップ等の参加率5%                                       | 3年生の生徒の在学中のインターンシップ参加率は1.5%。                        | 参加率が低かったことが課題。申し込んだがコロナの影響で中止になった生徒が複数いた。 | これから、元の生活に戻り、行事等活発になっていくので、ぜひ積極的にインターンシップ等参加してほしい。                                                                                                      | インターンシップ等への参加をさらに勧めていく。              |                                          |
|                         | キャリア教育の推進          | 進路選択時のキャリアサポート活用率50%以上                     | 全生徒がキャリアパスポートを記入する                                    | 全員が年間5回記入した。                                        | 全員が記入できたことが成果。                            |                                                                                                                                                         | 3年で進路資料を作成するときに記入したものを活用できるようにする。    |                                          |
|                         | キャリア意識・職業意識の高揚     | 就職応募前見学の参加率100%                            | 就職応募前見学の参加率95%                                        | 今年応募した生徒のうち、見学不可であった事業所を除いて参加率は100%。                | 見学可能な事業所に応募した生徒全員が応募前見学をしたことが成果。          |                                                                                                                                                         | 就職希望者全員が応募前見学をするように指導を続ける。           |                                          |
| 4. 地域と協働して活躍する人を育てる     | 地域社会に貢献する人材の育成     | リーダー研修会の実施年2回<br>出前授業、体力測定支援の実施            | リーダー研修会の実施年1回<br>出前授業の実施                              | 体力測定支援やリーダー研修会を実施した。                                | リーダー研修会において、地域貢献意欲を持たせることが出来た。            | 奈良南生徒だけでなく、大淀町と連携しての地域活動をするべき。<br>小学校等で、生徒によるスマホ安全教室など開催。                                                                                               | コロナ禍の活動制限が解除されれば出前授業も可能になる。          |                                          |
|                         | ボランティア活動の充実        | 通学路清掃年4回実施<br>校外美化活動年3回実施                  | 通学路清掃年3回実施<br>校外美化活動年2回実施                             | 通学路清掃・校外美化活動を4回実施した。                                | 計画通り実施することができ、地域の美化に貢献できた。                |                                                                                                                                                         | 参加者が多いため、活動場所を増やすなど効率よく実施する方法を模索する。  |                                          |
|                         | 学校運営協議会の推進         | 年間3回実施                                     | 年間3回実施                                                | 学校運営協議会としては2回の開催だった。                                | 開催時期の見直しの検討も必要である。                        |                                                                                                                                                         | 学校関係以外の方も参加していただくために、開催時間帯も検討する。     |                                          |
| 5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる   | 不登校への対策            | 生徒理解、支援シートの活用<br>不登校生徒理解のための会議年3回実施        | 生徒理解、支援シートの作成、周知。不登校生徒の状況理解、共通認識。                     | 不登校関係の会議を6回実施。支援シートは周知できていない。                       | 不登校生徒の状況の共通理解はできた。支援シートを周知させる。            | 中学校では、不登校生の心情が、学校に行けないというより、いっても仕方がないという感じに変化している。コロナ禍で、行事等について議論しているが、慎重にならざるを得ない。自分でそれなりに生活できる生徒は、成長して卒業していくが、そうでない生徒にどう対応していくのか。小中高と連携して対応していく必要がある。 | 不登校生徒の早期把握と、カウンセリングや通院との連携による不登校の予防。 |                                          |
|                         | 人権教育の推進            | 人権職員研修年3回実施                                | 人権LHRの報告用紙作成、共通理解。                                    | 人権LHRの報告書を作成して、職員会議で共通理解した。                         | 人権LHRを共通理解し、職員の研修は進んだ。                    |                                                                                                                                                         | 通級に向けての新たな研修の創設。                     |                                          |
|                         | 特別支援教育の推進          | 個別的教育支援計画の作成<br>ケース会議年7回実施                 | 個別的教育支援計画研究。<br>ケース会議年7回実施。                           | ケース会議を12回実施した。                                      | 必要なケース会議はできている。個別的教育支援計画は来年度作成する。         |                                                                                                                                                         | 教育支援計画の作成と作成方法の研修。                   |                                          |
|                         | いじめ対策              | 生徒アンケート・二者面談の実施年2回実施<br>いじめ防止対策委員会の実施年3回実施 | 生徒アンケート・二者面談の年2回実施<br>いじめ防止対策委員会の年3回実施                | 生徒アンケート・二者面談年2回及びいじめ防止対策委員会3回実施した。                  | アンケートや面談を通して生徒の悩み等を把握し、できる限りの見守り等支援を行った。  |                                                                                                                                                         | アンケートや面談及び委員会の継続が必要                  |                                          |

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートにおいて「本校に入学させてよかった」という問いに対して、Aそう思う 69.9%、Bだいたいそう思う 27.3%と回答があり、97.2%保護者が子どもが本校に入学したことに満足している。</li> <li>・中間目標は概ね達成しており、全体的な取り組みとしては及第点。</li> <li>・「インターンシップの参加」や「出前授業の実施」は目標値未達成であるが、コロナ禍の終息後、対外的な活動を再開する予定。</li> <li>・校外美化活動については、地域との協働作業に発展させていくことを検討する。</li> <li>・不登校対策や学力向上に関しては、目先の目標値に執着することなく、「社会的自立」や「学習意欲の向上」を目指し、根幹的な指導を重ねる。</li> </ul> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|